

観光ポスターの批評文を書こう

～各県の観光ポスターについて適切に資料等を引用し、自分の考えが分かりやすく伝わる批評文にする～



発行
令和3年1月
中部教育事務所



授業者 平林 香里 教諭(四万十町立大正中学校)

教材 「観察・分析して論じよう ポスターの批評文」

(東京書籍「新しい国語3」)

単元で目指す資質・能力/言語活動

- ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。【(1)イ】
- ・表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。【B(1)ウ】
- ・目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。【B(1)エ】

本単元では、観光ポスターの批評文を書くことを言語活動として設定している。具体的には、まず、生徒にとって身近な四万十町で行われるフェスティバルのポスターや、応用課題として高知県を含む3県の観光ポスターを観察・分析したり、比較したりして、描かれている情報を多面的に捉える。次に、観点を基に最も優れたポスターを選択し、その特性や価値などを評価する。そして、論の進め方を考え、批評文にふさわしい表現を工夫したり、資料を適切に引用したりして、説得力のある批評文を書くことを目指した。

単元計画 (全6時間)

題材の設定、情報の収集、内容の検討
(2時間)

1. 学習のめあてやゴールイメージをつかみ、学習の見通しをもつ。教科書の「学びの扉」を活用し、物事を色々な観点から捉える練習をする。批評文の特徴について確認し、フェスティバルのポスターを分析するためのポイントを考え、ポスターを観察する。
2. 観察・分析したことをもとに、どのポスターが良いのか自身の観点から判断をする。構成メモを作成し、批評文を書く。

構成の検討、考えの形成、記述
(2時間)

3. 書いたものを互いに読み合い評価し合う。学んだことを生かし、各県の観光ポスターを比較・分析する観点を確認し、判断を下す。
4. 参考資料の言葉などを引用しながら判断の根拠を挙げ、批評文を書く。友達の批評文からもの見方や参考になった文章の書き表し方を考え、自分の批評文に生かす。

推敲、共有 (2時間)

5. (本時) 批評文を読み合い、アドバイスをし合う。推敲したものを再度互いに読み合う。
6. 自身の考えを読み手に伝えるためにはどのような表現がよいか等を意識して、投書にふさわしい文章にしていく。書いた投書を新聞の読者の視点で読み合う。

本時の展開 本時の目標 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる批評文になるように工夫する。

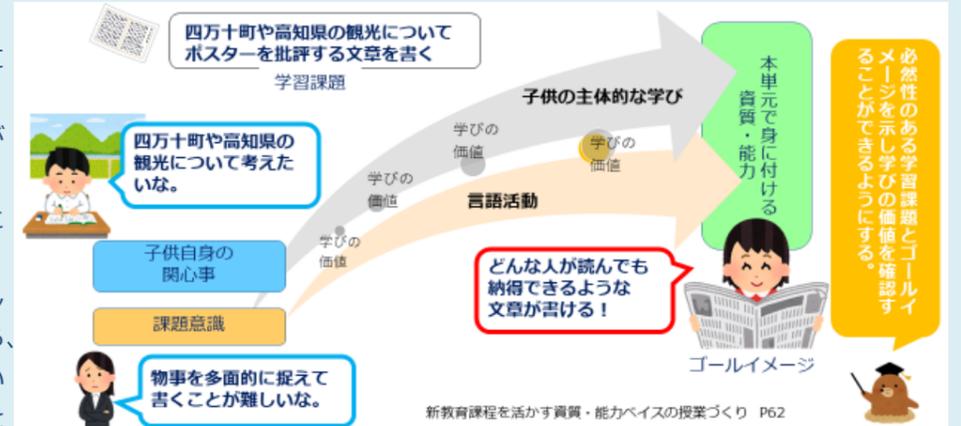
学習活動	指導上の留意点 (◇予想される生徒の反応)
1 前時の学習を確認し、本時のめあてを提示する。	・今まで学習してきた評価のポイントに沿って、自分の考えが読み手に分かりやすく伝わる批評文にしていくことを確認する。
2 前時で書いた批評文をグループで交換して読み合い、アドバイスをし合う。	・自分の考えと引用した資料がきちんとつながっているか、批評・感想に関する語句表の語句を活用し、考えが分かりやすく伝わる表現を意識して批評文が書かれているかどうか確認し、付箋に書く。
3 ・アドバイスを基に個で批評文を推敲する。 ・推敲した批評文を互いに読み合い、評価の観点を基に評価する。	・付箋に書かれたアドバイスを確認し、より良い批評文になるようにさせる。自身の判断の根拠として説得力があるのか、不特定多数の人が読んで分かりやすい構成となっているかを意識させる。
4 本時を振り返り、次時の見通しをもたせる。 ・よりよい批評文にするためにはどうすればよいか、気づいたことや分かったこと、他者の批評文から参考になった文章の書き方などを記述させる。	◇Aさんのように、参考資料から主張とびつたりとつながる部分を引用すると、考えを支える強い根拠になるんだね。 ◇キャッチコピーやデザインなどポスターに描かれた複数の事柄を、ポスターの目的や見る人の立場などの視点から多面的に捉えることで、見方や考え方を広げた批評につながるんだなあ。 ◇「巧み」や「効果的」など批評にふさわしい言葉を使うことで、自分の考えを読む人にしっかりと伝えることができるな。

教材研究会のポイント

子どもが学びの主体となる言語活動になるように

1 必然性のある学習課題とゴールイメージを設定する

言語活動の充実を図り、資質・能力を育成するためには、子供にとって必然性のある学習課題やゴールイメージを設定することが重要である。本単元では、「身近な町の観光について考えたい」という子供自身の関心事と、「物事を多面的に捉えて書くことが難しい」という現状における課題から、「四万十町や高知県の観光について観光ポスターを批評する文章を書く」という学習課題と「どんな人が読んでも納得できるような文章を書ける」というゴールイメージを設定した。



その中で批評文を書くという言語活動を繰り返していくことで、「どのように書けば、どのような言葉を使えば誰もが納得できる文章になるんだろう」とか「ポスターをいろんな角度から見て自分の考えが分かりやすく伝わる文章にしていこう」というように、子供達が次の学びに対する意欲をもち学ぶことの価値を生み出していくことができる。このように、言語活動そのものがイメージしやすく、子供にとって見通しがもてるものにしていく必要がある。

2 言葉による見方・考え方を学びの過程で繰り返し働かせる

国語科では、言葉による見方・考え方を働かせること、すなわち、言語活動を通して、どのような言葉を用いてどのように表現されているかという言葉の意味や働き、使われ方に着目して考えることが大切である。そのため、単元構成や授業の展開、つまり学習過程を適切に設定し、その中に言語活動を位置付けていくことが大切である。本単元では、批評の対象をまず身近なポスターに設定して批評文を書いてから、応用となるポスターに批評の対象を移して前時の学習をおさながら批評文を書いた。学習過程の中で言語活動を繰り返したことで言葉による見方・考え方(根拠と自分の考えが繋がっているかどうか資料や文章の言葉を用いて考える、批評文にふさわしい言葉を考える)が鍛えられ、資質・能力の育成につながった。

授業研究会のポイント

1 文書作成ソフトの校閲機能、コメント機能を活用して推敲する

批評文を推敲する際、生徒が一人一台端末を活用し、校閲機能や(右写真)コメント機能を用いる(右下写真)ことで、よりよい表現を目指した。まず、校閲機能を用いて、自分の下書きの文の順序を入れ替えたり、批評文にふさわしい表現に直した。その際、直した部分を色をつけて表したことで修正の跡が残り、生徒が自分の学習の状況を把握したり、教師が適切な評価を行ったりすることにつながった。また、コメント機能を友達への助言にも活用した。その際記名させたことが、後からコメントの意図を尋ねたり、よりよい表現を互いに助言し合ったりする場面や、教師が生徒の学習の状況を把握する場面で有効となった。その上で、友達への助言に対して自分の考えを書き留めたり、自分の文章を読み返して考えたこと(よい点や改善点)を書き留めたりすると、自分の文章をさらに客観的に読むことにつながると考えられる。



2 【知識及び技能】の力を言語活動を通して育成する

自分の考えが分かりやすく伝わる批評文になるように工夫するためには、批評文にふさわしい語句を用いるという【知識及び技能】の力も必要である。そのため、「批評・感想に関する語句表」を単元を通して活用し、批評や感想に関する語句を使い分けながら示していくことで、批評が単なる感想ではないことに気付くとともに、どのような言葉が批評にふさわしいのかを、言語活動を通して検討することができた。このように、重点指導事項である【思考力・判断力・表現力等】の力だけでなく、【知識及び技能】の力も同時に育成することが大切である。